

# 失敗から「まなぶ」大切

首長の自画自賛は、あまり見ていて好く映りません。「謙遜」「控えめ」に自分を語られた方が、そして、他の人が外から褒めて頂いた方が「聞きやすい」と。

細江市政での話題は、幾つかあります。産業廃棄物の不法投棄問題を外すわけにはいきません。日本全国に岐阜市を有名とした事件でした。被害額が回収出来ていないままである事も忘れてなりません。

この産廃問題が、その後の合併問題の近隣市町の「合併拒否」の理由の一つと報道されました。合併は細江市長の公約でしたが、最終的に残った合併相手は柳津町だけで、大合併は、事実上の失敗。柳津町の首の皮一枚でつながった首長でした。また、産廃問題ころから、定年を待たずして退職する市職員の話が気になりかけます。

首から掛けた「大きな名札」導入と、課係制から「室長制」へのフラット化。特に「室長制」は失敗でした。何年も改善質問がされましたが、なかなか素直に改善されませんでした。トヨタ自動車や岐阜県庁が「課係制」に変更しても、岐阜市が「課係制」に戻すまでに、なお時間を要しました。

議会も岐阜市も二分した立命館問題は教育と経済利益を混同した失敗。出直し介入選挙の失敗。東京宿泊費問題等で質問を受ける首長も珍しい。財政改善は浅井副市長の財政課長当時からの成果。JR 前の再開発は浅野市長以前からの政策成果。細江市長が表彰された北部プラントのりんP は年1億円の整備費掛けて500万円の収益。雨漏り直らない60億円メディコス。火災事故後の裁判放置されている東部クリーン。岐阜市民は何を「まなぶ」か？

## 「何とかしてほしい」 猫からの被害

昨年末に、男性2人が松原のりかず自宅に訪問された。「10年も前から被害にあっているが、我慢の限界で相談に来ました」と。男性の近所住民が多数（何匹か？）の猫を飼育していて、男性自宅は糞被害等にあっているが「改善要求しても飼い主が聞く耳を持たない」との事です。「保健所で何とかしてほしい」と力説される。

「飼い猫は、飼い主の許可なくに処分できない」旨をお話するが、男性はなかなか納得できない様子。避妊手術はされていない様子で、猫はどんどん増えるばかり。飼い主は「餌代が大変」と言っているが対策は取らない。この話を正月5日に保健所担当者と共に聞きする事に。「保健所のこまめな飼い主訪問指導」を確認したが、類似の話題も多く、条例等での強い指導は出来ないものか？ 一考必要と。

連絡先 市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

## 日常の職場の健康管理は出来ているだろうか

12日新聞報道の岐阜市職員(40歳)の転落死に関する問い合わせが入って来ます。電話をされてくる方も、市役所全体も大きなショックを受けています。現在、原因は把握できていません。大切な命が無くなったという事実があります。

伊藤哲さんの公務災害の取り組みには10年を要しました。「連綿と毎年一人の職員が自死しています」との伊藤夫人の訴えから、昨年11月に「過労死等防止啓発月間」が創設されました。それから、まだ二ヶ月経過していません。職場で管理職は、そこで働く職員の体と心の健康について、本当に目配りが出来ているのか問われています。そして、職員相互の「いたわり」を示す事が出来る環境は存在するのか・・・。

## 哲学なき 答弁 と 細江市政16年 と

11月議会での松原のりかず質問で、市長に「命の尊厳についての言葉(市長自身の考える)」を求めたが、答弁は事件経過と制度説明に終始しました。市長答弁からは「尊厳」どころか「最高責任者の自覚」ある答弁と心に伝わらなかった。

システムとしての「啓発月間」は、あくまで道具。活かす事の出来る人間の育成と環境創設が問われています。 転落死職員のご冥福をお祈り申し上げます。

## 器具の付いてない街路灯の電気代を払い続けていた自治会

自治会の街路灯3器をFLからLEDに取り替えました。ら、中電から4器目増設の請求書が届き「間違いでは」と問い合わせました。届出の不備は電気工事店のミスと判明。しかし、調査の中で「器具が無いのに電気代を引き落とし続けていた」街路灯の存在を発見。自治会役員は何代も替わっており、何時から払っていたのか記憶も曖昧。損失額は多額です。口座引き落としの「落とし穴」ですが、中電を信じ切っていて疑問も持たなかった訳です。中電も現場確認されてないのか? 同様の件、他にも無いのか?



松原のりかず  
☎058-253-2500